

地域再生計画

1 地域再生計画の申請主体の名称

高松市

2 地域再生計画の名称

高松市新都市拠点創成計画

3 地域再生の取組みを進めようとする期間

平成 16 年度から平成 19 年度まで

4 地域再生計画の意義および目標

本市は、城下町として発展してきた中心市街地において、四国の中枢管理都市として大企業の支店や国の出先機関が立ち並ぶ中央通りや全国有数のアーケード商店街など、圏域のリーディング都市にふさわしい都心機能を作り上げてきた。その中心市街地は、瀬戸内海を望むJR高松駅や高松港の南側に、半径 1 キロメートルの圏域の中に主な業務機能や商業機能が集中し、コンパクトに形成されてきた。

しかしながら、モータリゼーションの進展等による郊外型大規模小売店の増加や消費者ニーズの多様化などにより、中心市街地の商店街では、人の通行量は年々減少傾向にあり、2003 年 10 月の通行量は 1985 年の 62.2%となっており、景気低迷やIT化を背景に支店・営業所の統廃合等によって、中心市街地のオフィスビル空室率も 1997 年の 1.5%から今年の 3 月には 17.4%と悪化し、中心市街地の空洞化による業務機能の弱体化が懸念されている。

また、バブル期の地価の急激な上昇や、さらに本市中心部から車で約 15 分で隣接する町に移動できることから、定住人口が流出しており、1990年と2000年の国勢調査によれば、本市の人口はほぼ横ばいの状況であるのに対し、隣接する町の人口は着実に増加している。この人口流出が中心市街地の衰退傾向の一因ともなっている。

このようなことから、本市では、中心市街地の活性化とそれに近接する都心的居住環境を整備促進することが大きな課題（都心再生）となっており、様々なプロジェクトを推進している。

まず、中心市街地の活性化として、高松の 21 世紀の顔として整備を進めていた「サポート高松」は、JR 高松駅周辺の高松港頭地区に、国際化・情報化に対応した新しい都心の核づくりや海陸交通ターミナル機能の強化など、高次都市機能を持った環瀬戸内海圏の中核都市にふさわしいシンボルゾーンを形成しようとするもので、ホテルやターミナルビルなどは既にオープンし、さらには、高松市文化芸術ホール、かがわ国際会議場、情報通信交流館などの文化・コンベンション・情報発信交流機能、商業施設、業務オフィスが集積した複合施設である高松シンボルタワーが整備され、このエリアのランドマークとして賑わい創りにおおいに役立つものと期待している。

また、中心市街地の商店街において、高齢者から子どもまでが楽しめる魅力的な商店街を創造するため、土地の合理的かつ健全な高度利用を図る再開発事業を行っており、片原町商店街では一部完成しており、丸亀町商店街でも事業が推進されている。

一方、都心的住環境の整備として中心市街地の南に位置する太田第 2 地区では、国内で最大規模の土地区画整理事業を進めている。

この事業では、「潤いと活力に満ちたまち」をテーマに街路やポケットパークなどの公共施設、上・下水道などの公益施設の整備を進めており、特にこの地域の中央を貫通するレインボーロードは、幅員 11m の歩道にモニュメントを配置するなど景観にも配慮した道路である。この歩道を有効活用して、レインボー通りの活性化を図るために、ストリートコンサートや大道芸等のイベントの実施やオープンカフェを実施し恒久的な賑わいを図る。

また、「水と緑の回廊」をテーマにため池や公園などを利用した歩行者空間ネットワークを確保し、街角サインや歩道等の整備を行い、快適な歩行者空間の整備されたうるおいのある沿道景観づくりに努め、人と自然が響き合う、だれもが住みよいく感じる環境づくりを進め、良好な市街地の形成を図っている。

このようなことから、太田第 2 地区の都心的居住環境を整備し、商業等の

活性化を図ることによって、定住人口や交流人口を増加させ、そこを新たな都市拠点として創成し、中心市街地の活性化と合わせ、本市の都心再生計画につなげるものとする。

5 地域再生計画の実施が地域に及ぼす経済的社会的効果

新都市拠点として太田第2地区の商業機能の活性化を図ることによって、地区内の高松中央インターチェンジ等から、従来の交流域外からの流入人口を増加させ、さらには、そこから中心市街地商業施設への集客を図ることも可能であり、双方の相乗効果によって、地域経済の活性化が図られる。

また、その区域の都心的居住環境を整備し、市外からの定住人口の増加を促進することにより、中心市街地との循環交通網のさらなる充実が見込まれるなど、中心市街地と交流の活発化をも図ることも期待でき、本市全体の経済活性化につながるものである。

6 講じようとする支援措置の番号および名称

- 201001 映画ロケ、イベント等およびカーレースに伴う道路使用許可の円滑化
- 212002 道路占用許可弾力化（オープンカフェ等）
- 212028 まちづくり交付金の創設

7 構造改革特区の規制の特例措置により実施する取り組みその他の関連する事業

(1) その他関連する事業

ア のびのび子どもプラザモデル事業

子どもたちは、異年齢の集団の中での遊びや、地域の大人たちとのかかわりあいを通して、人として成長していくうえで大切な「豊かな感性」や「社会性」、「自主性」、「創造性」、「積極性」、「協調性」などが養われていくものである。

そこで、小学校の児童を対象に、異年齢の子どもたちが仲間や地域の大人たちとともに遊べる機会と場を提供することを目的に実施する「のびの

び子どもプラザ」を開設しようとする学校区を支援する。

イ 地域福祉計画策定

地域住民が障害の有無や年齢にかかわらず誰もが、住みなれた地域においてその人らしい安心のある自立した生活ができるよう、住民と行政が協働しながら多様な福祉サービスを総合的に提供する体制の整備や、また、計画の策定過程を通して住民が自らの地域に関心を持ち、互いに助け合い、ささえあうような意識の醸成を図り、地域みずからのまちづくりを進め、地域福祉の充実を促進することを目的に、地域福祉を実践するための基盤整備である地域コミュニティ構築と連携し、計画を策定する。

- 8 その他の地域再生計画の実施に関し地方公共団体が必要と認める事項
特になし

別紙 1

1 支援措置の番号および名称

201001 映画ロケ、イベント等及びカーレースに伴う道路使用許可の円滑化

2 当該支援措置を受けようとするもの

高松市

3 支援措置や特例措置を使った取組みの内容

今回整備を計画している太田第2地区には、シンボルゾーンとして区域中央に幅員39m（片側歩道幅員11m）の道路が整備されており、周辺には商業施設が整備されている。

道路が整備された当初（平成10年）には、歩道に賑わいがあったが、現在では年に数回行われているフリーマーケット以外に道路を利用したイベント開催されておらず、地域に賑わいをとりもどすためストリートフェスティバル等の開催を検討しているところである。

この支援措置により発出された内容にそって、住民や道路利用者との合意形成を図るために、本市及び地元商店等の関係者が連携・協力することで、イベントの実施に、より積極的に取り組んでいきたい。

別紙 2

1 支援措置の番号および名称

212002 道路占用許可の弾力化

2 当該支援措置を受けようとするもの

高松市

3 支援措置や特例措置を使った取組みの内容

今回整備を計画している太田第2地区には、シンボルゾーンとして区域中央に幅員 39m（片側歩道幅員 11m）の道路が整備されており、周辺には商業施設が整備されている。

道路が整備された当初（平成 10 年）には、歩道に賑わいがあったが、現在では年に数回行われているフリーマーケット以外に道路を利用したイベント開催されておらず、地域に賑わいをとりもどすためオープンカフェ等の実施を検討しているところである。

平成 16 年度に発出される通知により住民や道路利用者との合意形成に基づき、これらのイベントの実施に、より積極的に取り組んでいきたい。

別紙 3

1 支援措置の番号および名称

212028 まちづくり交付金の創設

2 当該支援措置を受けようとするもの

高松市

3 支援措置や特例措置を使った取組みの内容

平成 17 年度以降に以下の事業を実施することを検討する。

(1) 区画整理事業の完成

太田第 2 土地区画整理事業は平成 19 年度に換地処分を予定しており、残事業の早期完成を図り、新たなまちづくりを目指す。

(2) 水と緑の回廊整備

ため池や公園等を利用した歩行者空間ネットワークを確保し、商業地区の形成を促すため、快適な歩行者空間の整備されたうるおいのある沿道景観を整備する。

(指標) 南部地区 (太田下町長池線沿い) の農地の宅地化及び商業化

(事業内容) 街路、ポケットパーク、街角サイン、歩道 (バリアフリー整備) 等の整備

目標 (3) シンボル地区の活性化

シンボル地区 (レインボーロード) は平成 16 年度内に旧水路 (三軒屋水路) が除去され整備が完成する。歩道は平成 10 年度に完成し、今年で 7 年目になるが、幅員 11m の歩道でのイベントは、年数回のフリーマーケットや地元の夏祭りで利用される程度である。

また、店舗は経済の低迷もあって、集客率が低下している状態である。

このレインボーロードの活性化を図るために、11m の歩道に、溜まりの場所

が数箇所確保できることから、区域内の歩道に音響、映像装置等を設置し各種イベントに対応できるように整備し、恒久的なにぎわいを創る。

(指標) 商店の売上げの向上度や来客数

(事業内容) 歩道の音響機器整備 イベント補助